

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：保健予防費 目：母子保健指導費

事業名 子育て支援手帳活用・支援強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

子ども・女性部 子育て支援課 母子保健係

電話番号：058-272-1111(内3542)

E-mail：c11236@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,416 千円 (前年度予算額：1,469 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳								
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源	
前年度	1,469	0	0	0	0	0	0	0	0	1,469
要求額	1,416	0	0	0	0	0	0	0	0	1,416
決定額	1,416	0	0	0	0	0	0	0	0	1,416

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・低出生体重児、多胎児、ダウン症児等は成長等の個人差が大きく、通常の子育て健康手帳の記載内容では、その成長が実感できず、不安で落ち込む保護者が少なくないと指摘されている。
- ・また、出生数が少ないため、周囲に同じ経験をした保護者がおらず、孤独感や、情報が少なく不安感を持つことがある。
- ・そのため、成長発達の特徴に応じたきめ細やかな支援が必要である。

(2) 事業内容

- ・子育て支援手帳の配布
検討会の意見を参考に、低出生体重児用手帳（「ぎふすくすく手帳」）を、引き続き医療機関、市町村保健センター等を通じて希望する対象者へ配布する。
- ・保護者に対するピアサポート事業
低出生体重児の保護者に対する訪問支援事業及び保護者の集い開催や広報活動によるピアサポート事業を実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

個々の対象数は少なく、また分娩・治療等に対応する医療機関は広域にまたがるため、県全体の共通支援体制として事業を実施することは妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	189	検討会報償費
旅費	57	講師旅費、業務旅費
需用費	325	手帳購入費、チラシ作成費、研修会資料作成費
役務費	70	電話代・郵送料
委託料	732	ピアサポート事業
その他（使用料）	43	会場使用料
合計	1,416	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 事業主体及びその妥当性

個々の対象は限定されており、また分娩・治療等に対応する医療機関は広域にまたがるため、各市町村単位での調整では限界がある。そのため、県全体の共通支援体制として事業を実施することは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 きめ細やか支援が必要な児をもつ保護者の育児不安が軽減できる支援体制の構築を図るとともに、支援者の資質の向上を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

支援体制の整備・推進及び資質の向上が本事業の目的であるため。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ・低出生体重児の親の会へ委託し、NICU等に入院する低出生体重児への訪問事業や保護者の集い（ネットワーク事業）を年2回開催することで、保護者同士で不安を打ち明け、ひとりで抱え込まない体制を構築している。 ・多胎児や低出生体重児は年間100～130名（全体の1パーセント程度）の出生、ダウン症の出生率はより少なく、周囲から思いが理解されない、児の成長が不安という悩みを抱えている母は多い。手帳を配布したことで、コロナ禍でピアサポートが募れない、孤立しやすい環境にある中、救われた母も多いことが見込まれる。
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和5年度	令和4年度と同様
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和6年度	低出生体重児の親の会へ委託し、訪問や電話及びメールによる支援を実施した。また、保護者の集いを開催し、低出生体重児をもつ保護者の不安等の軽減を図っている。
	3

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>個々の対象者が限定されているため、市町村単位での調整では限界があるため、県全体の共通支援体制として整備する必要がある。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 3	<p>従来低出生体重児に向けた手帳等の媒体がなかったため、市町村及び3次医療機関でのニーズが高いと評価をいただいている。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>県全体として体制整備を推進することで、その後の市町村事業導入の一助になることを目的としており、事業の効率性は高い。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 低出生体重児は、出生後に判明するため、妊娠期からのピアサポーターとの繋がりが無い。そのため孤立しやすく、思いが共有できないことから産後うつ、虐待のリスクが大きくなる。産後早期にピアサポーターとの繋がりの場を設ける必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 子育て支援手帳を活用することで、対象となる児とその保護者に合わせた支援につながるほか、ピアサポーターによる支援によって不安等の軽減が期待できるため、今後も継続していく必要がある。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	